

市長記者会見配布資料（11月11～13日の沖縄訪問について）

《訪問の目的》

- ① 10月30日に外務副大臣及び防衛大臣政務官から、日米協議「2+2」共同発表の内容の説明を受けたが、その中で、米軍再編により普天間基地から移駐されることになっているKC-130について、「15機が来年（平成26年）6月から9月の間に岩国飛行場に移駐する見通しである。ご理解とご協力をお願いします。」との説明があったので、今後、岩国市として適切に対応していくために、沖縄の現状を自分の目で見て確認したい。
- ② 政府として、沖縄の負担軽減を目に見える形で精力的に進めたいとの考えであるが、実際に、沖縄県知事や宜野湾市長をはじめ、沖縄の方々がどのように受け止められているのか、また、2度のオスプレイの陸揚げなど、岩国がこれまで果たしてきた役割について、どのように評価されているのか、直接意見を伺ってみたい。
- ③ KC-130が15機配備された普天間基地の現在の運用状況について、自分の目で見て体感し、その後の対応の判断の一つにする。
- ④ KC-130やオスプレイに関する岩国の実情もお伝えしながら、同じ海兵隊基地のある自治体として、情報交換をするなどしてお互いの理解も深めたい。

《所感》（総括）

- 沖縄訪問は平成22年5月以来であるが、普天間基地内を視察し、また嘉数高台からも基地の全景を見渡し、以前の訪問時と何も変わらず、滑走路が住民の生活区域のど真ん中に位置し、運用されている状況であった。
- 航空機騒音の被害や事故の危険性と隣合わせの状況は全く変わっておらず、あらためて、住民に過重な負担がかかっていることを実感した。
- 普天間基地の危険性を除去していくために普天間基地の全面返還は、政府として最優先に取り組むべき課題であるとの認識を強くしたところである。
- 沖縄全土に米軍基地が点在しており、米軍基地が沖縄に集中していることは紛れもない事実である。
- 政府も言うように、沖縄の負担軽減を目に見える形で進めていく必要性をあらためて感じた。
- 仲井真知事及び佐喜眞市長が、沖縄の負担軽減のための岩国市のこれまでのさまざまな取り組みについて感謝の意を表された。
- また、両者も口々に日米同盟の重要性とそれを堅持していくことの必要性についても語られており、私も同様の認識であることから、意見を共有することができたことは、現地に赴くことによって、自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じてわかることがあるということである。沖縄県知事や宜野湾市長の

お考えについても、報道や国から間接的に知るのではなく、直接伺ってみて、新たに理解できる部分もあった。そうした意味では、今回の訪問は単なる確認ではなく、過去の判断の「検証」作業ということでもあり、大変有意義であった。

《普天間飛行場の視察について》

- 普天間基地でKC-130の運用状況について、基地司令官や飛行部隊の幹部から説明を受けた。
- 配備されている機数については、部隊やプログラムの変更によりそのつど変更されるとの説明を受けた。
- KC-130は、現在、15機が配備されているとのことであったが、保守点検や整備などにより、実際には10機程度の運用であるとのことであり、仮に岩国に移駐しても同様であるとのことであった。
- KC-130やオスプレイも見ることができた。フィリピンの台風被害の支援のため8機が現地に展開されているとのことであった。また、KC-130数機がフィリピンへ派遣されている状況であった。
- オスプレイの沖縄配備後、機体のトラブルもなく、日米合意を遵守して運用しているとのことであった。また、米軍の第一優先事項は安全性であり、安全な運用を最重要項目として取り組んでいるとのことであった。
- 少なくとも、今回の訪問においては、現に15機が配備されている普天間基地の状況を見て、このうち12機の移駐なら可で、15機なら不可とする知見を得るには至らなかった。

《沖縄県知事との面談》

- 私の方からは、市として、KC-130の移駐そのものについては既に認めていることや、先行移駐に関する基本姿勢について申し上げるとともに、沖縄の負担軽減の必要性については十分に理解していることを申し上げた。
- 普天間飛行場の危険性の除去の必要性についての認識は共有でき、普天間飛行場の全面返還については、沖縄県知事と意見が全く一致した。
- 日米同盟の重要性についても、共通認識を持つことができた。
- 岩国が移駐を認めていることやオスプレイの陸揚げ等で沖縄の負担軽減のために岩国が果たしてきた役割について、知事は「沖縄の負担軽減のための岩国市の様々な取り組みに大変感謝申し上げます。」旨、述べられた。
- KC-130の先行移転については、実現されれば沖縄の負担軽減と言う観点からも、大変ありがたいとの発言があった。
- 普天間基地の移設については、県外のほうが早いであろうとの主張を繰り返されたが、埋立承認に関しては、これから最終的な結論を出さざるをえない時期を迎えているとのことであった。

《宜野湾市長との面談》

- 私の方からは、宜野湾市長へも沖縄県知事と同様の趣旨で申し上げた。
- 普天間基地の危険性についての認識は共有でき、同じ海兵隊基地を抱える自治体として連携できることは連携していこうとの話をした。
- 岩国が移駐を認めていることやオスプレイの陸揚げ等で沖縄の負担軽減のために岩国が果たしてきた役割については、宜野湾市長は「岩国市長のこれまでの行動について敬意を表しているし、KC-130移駐の受け入れという目に見える形での判断に対しても感謝している」旨、述べられた。
- 普天間飛行場の全面返還は、宜野湾市民にとってゴールであり最大の目的でもあり、米軍基地があるが故の負担については、国民が等しく理解し、応分の負担を担ってほしい」旨の発言があった。
- 他方、日米交流にも大変意欲的で、普天間基地司令官などと頻繁に協議を行っているとのことであった。

《沖縄防衛局長との面談》

- 沖縄県における全般的な基地の状況説明を受けた。
- 特に、普天間飛行場に関しては、辺野古への移設計画が普天間飛行場の継続的な使用を回避するための唯一の有効な解決策であり、政府の考えを地元の説明しつつ、沖縄の方々のご理解を得るために誠実に努力していくとの説明を受け、政府の強い決意を感じた。

《今後のスケジュール》

- 市議会の意向や、山口県とも協議した上で今後適切に対応してまいりたいと考えている。

《視察内容》(参考)

11日(月)

- ・ 平和祈念公園(戦没者墓苑献花・防長英霊の塔献花・平和の礎視察)

12日(火)

- ・ 沖縄防衛局長との面談
- ・ 局庁舎屋上から嘉手納基地視察
- ・ 嘉手納弾薬庫視察
- ・ トリイ通信施設視察
- ・ 沖縄県知事との面談

13日(水)

- ・ 宜野湾市長との面談
- ・ 北西学習等供用会館視察(浦添市)
- ・ あやかりの杜(図書館・滞在交流複合施設)視察(浦添市)
- ・ 普天間飛行場視察(嘉数高台公園)
- ・ 普天間飛行場視察(基地内)